

○今月の「テーマ展示とアプリでStudy!」【蔵本分館】

今回は医療教育開発センター長、赤池雅史教授に監修いただき、「身体診察」をテーマに関連書籍・雑誌を展示しています。

「毎日患者を観察していれば、病歴と身体診察によって、現代のテクノロジーだけに依存するよりも数時間や数日、時には数週間も速く正しい診断にたどりつくことができるのだ。さらにある種の診断(中略)には、病歴と身体診察の代わりになるテクノロジーはない。」

『サパイラ 身体診察のアートとサイエンス』(医学書院)初版の序にはこのように記されています。古来より、医師の技術として受け継がれてきた身体診察ですが、近年、医療の現場でも科学技術が目覚ましいし進展を見せる一方で、その重要性が顧みられる機会は少なかったように思われます。しかし最近、身体診察に関する本が多く出されるようになり、各地で勉強会やセミナーが開催されるなど、身体診察への関心は高まっていると感じます。

医療機器・医療検査技術はこの数十年で急速に発展・普及しました。設備の整った環境では、CTやMRIが簡単に撮れてしまうのが現状ですが、常に便利な検査機器が使える環境にあるとは限りませんし、この先どれほど進化を遂げたとしても、検査は診察に取って代わるものではありません。時代が変わっても、医療の根底には、患者さんから話を聞き、触れ、打診して、音を聴くといった、生きたコミュニケーションがあるのではないのでしょうか。

医師と患者のコミュニケーションの基本とも言うべき身体診察は一方で、医療を行う目的のもと、患者さんのプライベートな部分に踏み込むという、非常にデリケートな側面も持っています。医療を志す皆さんにとって、身体診察について深く考える機会を持つことは、きっと意味あることと思います。

今回のテーマ展示「身体診察」は学生さんから寄せられたリクエストテーマの1つです。

これからもみなさんのニーズに応じた企画を実施すべく、リクエストテーマを募集しています。同コーナーに設置したご意見箱に、ぜひみなさんの声をお寄せくださいね。

「身体診察」、展示期間は夏季休業を考慮して少し長めの9月25日(月)までとなっています。身体診察は本や論文を読むだけで身につくものではありませんが、技術を身につけるヒントは見つかるかもしれません。

期間中、ぜひ蔵本分館1階ホール、テーマ展示コーナーにお立ち寄りください。

展示の様子はこちら



今まで行ったテーマ展示の一覧は

→ <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/siryou/theme/> から見るができますので、ぜひチェックしてみてください！

展示資料のリスト

→ <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/news/news17/pdf/2017080102.pdf>

[メールマガジン「すだち」第151号本文へ戻る](#)

【すだち】徳島大学附属図書館報 第151号

〔発行〕国立大学法人 徳島大学附属図書館

Copyright (C) 国立大学法人 徳島大学附属図書館

本メールマガジンについて、一切の無断転載を禁止します
